



軽防協ニュース速報（号外）

2021年8月11日
軽種馬防疫協議会 事務局
(JRA 馬事部防疫課)

東京 2020 オリンピック・パラリンピック馬術競技会場における馬ピロプラズマ症の発生

東京2020オリンピックの馬術競技大会に出場するために来日した馬1頭が、会場である馬事公苑（東京都世田谷区）へ到着した3日後に、馬ピロプラズマ症であると診断されました。同馬は速やかに会場内の隔離厩舎に収容され経過観察されていましたが、状態は改善し8月6日に出国しました。なお、同会場には200頭を超える競技馬が在厩していましたが、同馬以外に異常を示す馬はおらず、オリンピックの馬術競技大会は無事終了しております。以下に、現時点までの状況を要約しました。これらのオリジナルのデータは、OIEやInternational Collating Centre（ICC）のホームページからアクセスできます。

発生状況

発症馬（15歳、セン）は、アーヘン（ドイツ）で7日間の出国前検疫を受けた後、同一ロットの他36頭とともに、7月21日に大会会場である馬事公苑（東京都世田谷区）に到着しました。なお、輸出前の間接蛍光抗体法による馬ピロプラズマ症の検査は陰性でした。

当該馬は、到着してから3日後の7月24日朝に発熱（約40℃）および貧血（Hct値＝約16%）を示しました。馬伝染性貧血および馬ピロプラズマ症を疑い、JRA 競走馬総合研究所へ検査材料を持参し検査を実施したところ、*Theileria equi*陽性であることが判明しました（血液塗抹標本の鏡検およびPCR検査で陽性、間接蛍光抗体法は陰性）。馬伝染性貧血の検査（ゲル内沈降反応）は陰性でした。同馬は速やかに会場内の隔離厩舎に収容され、大会組織委員会および関係当局の監視下で経過観察されていましたが、状態が改善し8月6日に出国しました。なお、当該馬が飼養されていた隔離厩舎内は、遅滞なく殺ダニ剤で消毒されました。

各国から200頭を超える競技馬が来日し滞在していましたが、同馬以外に異常を示す馬はおらず、オリンピックの馬術競技大会は無事終了しております。

今回の症例は、本症の比較的長い潜伏期間（12～19日間）の観点から、日本到着前に感染したものと考えられます。本症はダニにより媒介される伝染病ですが、大会会場である馬事公苑ならびに海の森公園は大会の5年前からダニの生息調査と駆除を行ってきており、本症を媒介するダニは確認されていません。また、今回オリンピック馬術競技出場のために来日したすべての競技馬は国内馬との接触はないことから、本症の国内馬への伝播リスクはありません。

馬ピロプラズマ症とは？

馬ピロプラズマ症は赤血球の中に寄生する原虫によって起こる病気で、ダニによって媒介されます。感染した馬は貧血、黄疸、発熱や血尿などの臨床症状を示し、約10%が死亡すると言われています。馬に感染するピロプラズマ原虫には、*Babesia caballi* および *Theileria equi* の2種類があり、今回の発生は *Theileria equi* によるものです。本症は世界各地に存在していますが、日本では動物検疫所以外の場所における初めての発生報告となります。発症馬に対する化学療法は存在しますが、一般的ではありません。また、ワクチンもありません。